

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究名】 乳がんアンストラサイクリンレジメン誘発悪心・嘔吐と患者因子との関連性の検討

【研究機関】 愛媛大学医学部肝胆膵・乳腺外科

【研究責任者】 亀井 義明

【目的】

抗がん剤治療では、吐き気や嘔吐の副作用が出るのが問題になります。その対応策として予防的に吐き気止めが使われます。一方、抗がん剤治療による吐き気や嘔吐と患者さんの年齢、性別、飲酒習慣、喫煙歴などが関連することが報告されています。

本研究では、愛媛大学医学部附属病院で乳がんアンストラサイクリン系抗がん剤治療(FEC療法、AC療法、EC療法)が行われた患者さんを対象に、吐き気や嘔吐と患者因子との関連性を調査して、医療現場への還元を目的としています。

【研究意義】

日本人を対象とした抗がん剤治療による吐き気や嘔吐と患者因子は報告されていますが、乳がんアンストラサイクリン系抗がん剤のデータはありません。吐きやすい患者さんがわかれば、予め吐き気止めを強化して予防に努めることが期待されます。

【研究方法】

対象患者:2011年5月～2017年6月に愛媛大学医学部附属病院で乳がんアンストラサイクリンレジメンを少なくとも1コース以上行った患者さん

調査方法:電子カルテ(IBM)を用いた後方視的調査

調査項目:年齢、性別、体表面積、body mass index、stage、喫煙歴の有無、飲酒習慣歴の有無、PS、出産歴の有無、糖尿病合併の有無、レジメン名、アンストラサイクリンレジメンの投与量、制吐療法、併用薬、好中球数、腎・肝機能検査値(eGFR、AST、ALT)、1コース目治療開始から5日間の期間における悪心、嘔吐、救済治療の有無、救済治療の薬剤名

【研究期間】

2018年5月～2019年3月を予定。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部肝胆膵・乳腺外科 亀井 義明

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号:089-960-5327

【情報管理責任者】 乳腺センター医員 村上 朱里